

“地鎮祭”のアイヌ語

—呼称および祈詞の事例について—

奥田統己

目次 はじめに

- 1 「地鎮祭」のアイヌ語呼称について
 - (1) 鷹部屋福平『アイヌの住居』(1943)
 - (2) 久保寺逸彦「アイヌの建築儀礼について」(1968)
 - (3) 萱野茂『チセアカラ』(1976)『萱野茂のアイヌ語辞典』(1996)
 - (4) 高倉新一郎「家屋の建築に伴う儀式」『アイヌ民族誌』(1969)
 - (5) アイヌ語静内方言の話者の記録
 - (6) 小結
 - 2 久保寺逸彦ノートに記録された平取地方の「地鎮祭」の祈詞
 - (1) 解題
 - (2) 本文
 - (3) 注
- おわりに

Key Words

アイヌ民族 (Ainu)、地鎮祭 (Ground-breaking ceremony)、家屋の敷地の選定 (Selecting grounds of houses)

はじめに

本稿の目的は、アイヌ文化のなかで行われてきた家屋の新築に先立ってのいわゆる「地鎮祭」について、アイヌ語ではどのように呼称されるのかを、これまでの記録を参照して確認し、あわせて北海道博物館が所蔵する現地調査資料に収められている、地鎮祭における神々への祈詞を紹介することである。

1 「地鎮祭」のアイヌ語呼称について

(1) 鷹部屋福平『アイヌの住居』(1943)

本書は、いわゆるアイヌの伝統的な家屋の構造、間取りおよび関連する儀礼などにかんする、北海道各地での調査に基づく報告である。そのうち平取町での「地鎮祭」の手順を報告した箇所には「地鎮祭は之をチセコツ・エイノンノイタク (家を建てる場所の為に神に申し上げる言葉の意) と呼ぶ。」という記述がある。本書ではアイヌ語の音節末子音にも通常のカナが当てられ、とくに小さい文字を用いるなどの工夫はなされていないので、鷹部屋の報告しているアイヌ語を現在の表記に転写

すれば以下に相当すると考えられる。なおイノンノイタク inonnoytak の頭のイ i は、鷹部屋が調査した話者の方言ではその前の接頭辞エ e- と一つの音節をなし、現在は音節末子音として y で表記されることがある。同じく語中のイはイタク itak の語頭の母音に由来するが、この方言では直前のオ o と一つの音節をなすので y と表記される。

チセコツ・エイノンノイタク

cisekot-einonnoytak または cisekot-eynonnoytak

(2) 久保寺逸彦「アイヌの建築儀礼について」(1968)

やはり平取町二風谷でのアイヌの建築儀礼についての詳細な調査に基づく本報告ではいわゆる「地鎮祭」について「家の敷地定めの祈詞 chisekot-e-inonnoytak」が報告されている。同じく現在通用している表記では以下に相当する。

チセコツ・エ・イノンノイタク

cisekot-e-inonnoytak

(3) 萱野茂『チセアカラ』(1976)

『萱野茂のアイヌ語辞典』(1996)

いずれにも「チセコッエイノンノイタク 地神祭：家を建てる場所をはらい清める祭のこと」という記述がある。同じく現在は以下のように表記される。

チセコッエイノンノイタク
cisekot-eynonnoytak

(4) 高倉新一郎「家屋の建築に伴う儀式」『アイヌ民族誌』(1969)

本書には、以上の記録とは異なる「地鎮祭、すなわちチセコッエノミ。」という呼称の記述がある。なお続けて「新宅祝い、すなわちチセイノミ。」という記述もみられる。

(5) アイヌ語静内方言の話者の記録

織田ステノ氏(『アイヌ民俗文化財調査報告書(アイヌ民俗調査)Ⅲ静内地方』1984)と葛野辰次郎氏(『葛野辰次郎の伝承』2002)によればチセコッエトウン cisekot-etun「家の敷地・を借りる」という表現がある。これはおそらく地鎮祭そのものというより、敷地の選定から使用までの儀礼や祭祀あるいは人間の行い全体をさしているアイヌ語だろう。また織田氏は同じ調査に対してチセコッカムイノミ cisekot-kamuynomiというかたちも示している。

(6) 小結

現地調査に基づいていることが明らかな鷹部屋、久保寺および母語話者である萱野の記述する呼称はいずれもチセコッ・エイノンノイタク cisekot-eynonnoytak (einonnoitak/einonnoytakという表記もありうる)である。続けて発音すれば「チセコテイノンノイタク」になることもあるだろう。語構成を検討するとイノンノイタク「祈詞をあげる」という1項動詞(自動詞)に「～について」の意味のエが接頭し、その対象となるチセコッと複合(抱合)したかたちで、全体は名詞として働くことも可能な1項動詞(自動詞)となり、儀式的名称として安定する。

織田氏の示した「チセコッカムイノミ」cisekot-kamuynomiはチセコッ、カムイノミいずれも名詞として解釈できるので、全体も2つの名詞が複合した名詞として容易に解釈できる。

いっぽう高倉の示した「チセコッエノミ」あるいはこれを続けて発音したかたちの「チセコテノミ」は、ノミ「～を祀る」という2項動詞(他動詞)にさらにエを接頭させてからチセコッと複合しているため、全体はなお

未定の目的語を要求する2項動詞(他動詞)のままとなり、名詞として働くこともできず、儀式的名称などになるにも不自然なかたちである。1項動詞(自動詞)にするには目的語相当の要素がもう一つ必要となる(例えばノミする対象を指すイを接頭させて「チセコッエイノミ(チセコテイノミ)」とするなど。ただしこのかたちは資料で確認できないので現時点では架空の語形である)高倉(1969)が新築儀礼のアイヌ語呼称としてあげている「チセイノミ」は、逆にイが余分に現れていて、アイヌ語の動詞として破綻しているようにもみえる。いずれにせよ高倉があげている「チセコッエノミ(チセコテノミ)」も「チセイノミ」も、どのように記録されたのかはつきりせず文法的にも説明が困難な、アイヌ語としては成り立ちにくい形である。

なお新築祝いは鷹部屋、久保寺、萱野いずれチセノミ cise-nomi。ノミ「～を祀る」という2項動詞(他動詞)に目的語名詞のチセが直接ついているので、全体は1項動詞となり、儀式的名称として安定した語形である。この点は推測だが、ノミ「～を祀る」は神を対象とする動詞だと考えれば、チセカムイを祀る新築祝いが「チセノミ」となるいっぽう、それ自体が神ではないチセコッについて、水の神や大地の神などに祈りを捧げる地鎮祭が「チセコッエイノンノイタク」となることは説明できる。

2 久保寺逸彦ノートに記録された平取地方の「地鎮祭」の祈詞

(1) 解題

以下本稿では、北海道博物館が所蔵する久保寺逸彦調査ノートに記録された平取地方のアイヌの「地鎮祭」の祈詞を紹介する。久保寺逸彦がローマ字で記録したアイヌ語はそのまま掲載し、新たに奥田によるカタカナと日本語訳を前後の行に付した。

この祈詞に相当するとみられる「地鎮祭」の祈りの内容は、すでに久保寺(1968)が日本語で紹介している。同文献によれば、ここでの報告は主として平取町二風谷に在住した二谷國松氏からの聞き取りに基づくとされる。久保寺(1968)の日本語による紹介はここでのアイヌ語本文とおおむね対応しているが、数か所で日本語の訳がないところ、逆にアイヌ語原文にない訳が挿入されているところがある。また筆録のあとから、日本語で意味を記載したり、アイヌ語の語形を改めて記載したり、また類似するアイヌ語表現などを記録している場合もある。ここではそれらの情報を末尾に注記した。一部に現れる個人名は伏字とした。

当該の調査記録は、久保寺(1968)によるアイヌ建

築儀礼にかんする報告の基礎となったものであり、ここで紹介する「地鎮祭」だけではなく、建物が完成したあとの「新築儀礼」やそれに伴う祖霊祭祀などに至る一連の行事の流れやそこで用いられる祈詞が記録されている。なお本ノートは、北海道博物館において2019年度中に閲覧用の複製を整備する予定である。

(2) 本文

タパン ピラトゥル

tapan piraturu ⁽¹⁾

この平取

ピラトゥル コタン

piratur kotan ⁽²⁾

平取村

コタン セレマカ

kotan seremaka ⁽³⁾

村の背後で

エイナウウク クニプ

einau uk kunip ⁽⁴⁾

イナウを受け取る神

シンリッ ノミ

shinrit nomi ⁽⁵⁾

先祖が祀り

エカシ ノミペ

ekash nomipe

エカシが祀った神

ラムヌサ コロ カムイ

ram nusa kor kamui ⁽⁶⁾

低い祭壇を司る神

シランパ ピト

shirampa pito

樹木の神

カムイ エカシ

kamui ekashi ⁽⁷⁾

神なるエカシ

オリパク トウラ

oripak tura

畏れとともに

イキ ヤツカイキ

iki yakkaiki

ではありませんが

カムイ ケウトウモロ

kamui keutum oro ⁽⁸⁾

神の御心

エコイタツカラ

ekoitak kar

に詞を申し上げ

クキ ア ヤクネ

ku ki a yakne

ますなら

イタク クルカシ

itak kur kash ⁽⁹⁾

詞の上に

チコホサリ

chiko hosari ⁽¹⁰⁾

振り向き

チコヘネネ

chiko henene ⁽¹¹⁾

振り向くことを

アエネカラカンナ

aenekarkan na ⁽¹²⁾

私にしてください

タップ アナクネ

tap anakne ⁽¹³⁾

このたび

シュクプ オツカイポ

shukup okkaipo ⁽¹⁴⁾

成長した若者

タパン ヘカチ

tapan hekachi

この子供

アク クヌ ワ

ak kunu wa ⁽¹⁵⁾

私が弟に持つ

(タパン ○○○)

(tapan ○○○)

(この○○○が)

シランパ カムイ

shirampa kamui

樹木の神

カムイ エカシ

kamui ekashi

神なるエカシの

ヌプル ケウトウムフ

nupur keutumhu ⁽¹⁶⁾

霊力ある御心

コエトウレンノ

koeturenno ⁽¹⁷⁾

とともに

ハシナウ ウク カムイ

hashinau uk kamui

ハシナウを受け取る神の

ヌプル ケウトウム

nupur keutum⁽¹⁸⁾

霊力ある御心に

イコイラウエペ

ekoirawepe⁽¹⁹⁾

期待をかけて

タパン ヤイエトコイキ

tapan yaietokoiki⁽²⁰⁾

このように準備を

キ ア カトゥ

ki a katu

するようすは

エネ オカヒ

ene okahi

このとおりです

イレス カムイ

iresu kamui

育ての神

モシリコロフチ

moshir kor huchi

国土を治める火の女神を

エコイトムテカラ

ekoitomte kar⁽²¹⁾

立派にする

セコラン クス タプ

sekoran kusu tap⁽²²⁾

というためにこそ

チセ カツケマツ

chisekatke mat⁽²³⁾

家の女神

ケンル カツケマツ

kenru katkemat

建物の女神

アノミ カムイ

anomi kamui

われわれが祀る神

カムイ ケウトウモロ

kamui keutumoro

神の御心に

エコイラウエ

ekoirawe

期待をかける

ネ エトコ

ne etoko⁽²⁴⁾

その前に

チセ アアシ クニ

chise aashi kuni⁽²⁵⁾

家を建てるための

チセコツ タプネ

chisekot tapne⁽²⁶⁾

敷地をこそ

アカラ カトゥ

akar katu⁽²⁷⁾

作るしだい

セコラン

sekoran kusu tap

ということなので

チセコテイノンノイタク

chisekoteinonno itak

チセコテイノンノイタクを

ネプ ケヤヨトウワシ ワ

nep keyayotuwash wa⁽²⁸⁾

私は何ら自らを好み

クコニタン ワ

ku ko nitan wa⁽²⁹⁾

器用なものでも

ソモ ネ ヤッカ

shomone yakka

ありませんが

アク クヌ ワ

ak kunu wa⁽³⁰⁾

弟を持って

コツチャケ タ

kot'chake ta⁽³¹⁾

彼の代わりに

カムイ ケウトウモロ

kamui keutum oro

神の御心に

エコイタツカラ

eko itak kar

申し上げる

クキ ハウエ タパン

kuki hawe tapan

のであります

ホシキ クイタク

hoshki ku itak

先に私が申し

エエパキタ

eepakita⁽³²⁾

続いて

ペウレ アイヌ
 peure ainu ⁽³³⁾
 若い人間
 シュクプ ヘカチ
 shukup hekachi
 成長した子供が
 (タパン ○○○)
 (tapan ○○○)
 (この○○○)
 ネ ア ヤクン
 ne a yakun
 であって
 インキ ト タ
 inki to ta ⁽³⁴⁾
 いずれの日にか
 チセ カッケマツ
 chise kat ke mat
 家の女神に
 チラマッコレ
 chira mat kore ⁽³⁵⁾
 魂を込める
 イキ ヤッカイキ
 iki yakkaiki
 のであって
 セレマク オロケ
 seremak orke ⁽³⁶⁾
 背後が
 チコブンキネ
 chikopunkine
 守られる
 タパンペ クス
 tapampe kusu
 ので
 エカシカラ イナウ
 ekashkar inau
 エカシの作るイナウ
 コエトウレンノ
 koeturenno ⁽³⁷⁾
 とともに
 カムイ ケウトウモロ
 kamui keutumoro
 神の御心に
 エコイタツカラ
 eko itak kar
 申し上げる

クキ ア ヤクネ
 ku ki a yakne
 ならば
 ケンル カッケマツ
 kenru katkemat
 建物の神に
 チラマッコレ
 chiramat kore ⁽³⁸⁾
 魂を込める
 ネ ヒ オロタ
 ne hi orota ⁽³⁹⁾
 ときに
 アパネ ウタラ
 apane utar ⁽⁴⁰⁾
 親戚のもの
 アヌンネ ウタラ
 anunne utar ⁽⁴¹⁾
 他家のものが
 ウエカラパ ワ
 uekarpa wa ⁽⁴²⁾
 集まって
 イカシュイ ヤッカ
 ikashui yakka ⁽⁴³⁾
 手助けをしても
 イユニン サクノ
 iyunin sakno ⁽⁴⁴⁾
 痛い思いをせずに
 ニウチリ サクノ
 niuchiri sakno ⁽⁴⁵⁾
 あやまちなく
 モンライケ クニ
 monrai ke kuni
 働くように
 タパナクネ
 tapanakne
 このことは
 シランパ カムイ
 shirampa kamui
 樹木の神の
 アコロサンニヨ
 akorsanniyo ⁽⁴⁶⁾
 思し召しと
 アコロ プンキネ
 akor punkine ⁽⁴⁷⁾
 お見守りが

アン ルウェ ネ ヤク

an ruwe ne yak

あるならば

シネ イキンネ

shine ikinne

一つに合わせて

カムイ ケウトウモロ

kamui keutumoro

神の御心に

エコオンカミ

ekoonkami⁽⁴⁸⁾

礼拝し

エコヘポキ

ekohepoki⁽⁴⁹⁾

頭を下げることを

チキ クス タプ

chiki kusu tap

私たちはしますので

ヤヤプテ アイヌ

yayapte ainu⁽⁵⁰⁾

危うい人間

オリパク アイヌ

oripak ainu⁽⁵¹⁾

恐れ慎む人間で

クネ ア ヤッカ

kune a yakka

私はありますが

イリワク コッチャ タ

iriwak kotcha ta⁽⁵²⁾

兄弟に代わって

カムイ ケウトウモロ

kamui keutum oro

神の御心に

エコイタツカラ

eko itak kara

申し上げる

クキ ハウエ タパン

kuki hawe tapan

のでございます

ケヤイタカラ カ

keyaitakar ka⁽⁵³⁾

そのことで夢見も

コカヌ ナンコンナ

kokanu nankonna⁽⁵⁴⁾

確かめるでしょう

ハ エ エ

ha e e⁽⁵⁵⁾

hashinauニ枝ヲツケルノハ子供ガ丈夫デ育ツ様ニ祝
福スル⁽⁵⁶⁾

(2) Hashinauニイフ inonno itak

タパン ピラトル

tapan piratoru⁽⁵⁷⁾

この平取

タンパセ コタン

tanpase kotan

この偉大な村

コタン セレマカ

kotan seremaka

村の背後で

エイナウ ウク クニプ

einau uk kunip

イナウを受け取る神

ハシナウ ウク カムイ

hashinau uk kamui

ハシナウを受け取る神

エカシ ノミ クル

ekash nomi kuru

エカシの祀る神

カムイ パセ クル

kamui pase kuru

神なる偉大なかた

(kamui ekashiト男ニシテイフノハ誤)

オリパク トウラ

oripak tura

恐れとともに

ヤヤプテ トウラ

yayapte tura

申し訳なく思いながら

ネ ワ ネ ヤッカ

ne wa ne yakka

ではありますが

アパセ ケウトウム

apase keutum

偉大なる御心に

エコイタツカラ

ekoitak kar

言葉を唱える

クキ ハウエ タパン

kuki hawe tapan

のでございます

セコロ アナクン
 sekor anakun ⁽⁵⁸⁾
 そうすれば
 イタク クルカシ
 itak kurkashi ⁽⁵⁹⁾
 言葉のうえに
 チコホサリ
 chikohosari ⁽⁶⁰⁾
 振り向いて
 オオマ ナンコロ
 ooma nankor ⁽⁶¹⁾
 くださるでしょう
 エネ アン クニ
 ene an kuni ⁽⁶²⁾
 そうなるべき
 イリワク クヌ ワ
 iriwak kunu wa ⁽⁶³⁾
 私は兄弟を持って
 シュクプ オツカイポ
 shukup okkaipo
 成長した若者
 タパン ○○○
 tapan ○○○
 ここなる○○○が
 ハシナウ ウク カムイ
 hashinau uk kamui
 ハシナウを受け取る神
 カムイ パセ クル
 kamui pase kuru
 神なる偉大なかた
 コエトウレンノ
 ko eturen no ⁽⁶⁴⁾
 とともに
 ラム ヌサ コロ カムイ
 ram nusa kor kamui
 低い祭壇を司る神
 カムイ ケウトウモロ
 kamui keutum oro
 神の御心を
 エコイラウエプ
 ekoirawep
 期待をかける
 タパン ヤイエトコイキ
 tapan yaietokoiki ⁽⁶⁵⁾
 こうした準備を

ケンル カツケマツ
 kenru katke mat
 建物の女神
 チセ カツケマツ
 chise katke mat
 家の女神
 ネ ア ヤクネ
 ne a yakne
 であれば
 チセ アシ クニ
 chise ashi kuni
 家を建てるべく
 チセコテイノンノイタク
 chisekot e inonnoitak
 チセコテイノンノイタクを
 クキ ハウエ タパン
 kuki hawe tapan
 私は申し上げるのです
 セコラン ヤクン
 sekoran yakun ⁽⁶⁶⁾
 そうすれば
 インキ ト タ
 inki to ta ⁽⁶⁷⁾
 いつの日にか
 ケンル カツケマツ
 kenru katkemat
 建物の女神に
 チラマツコレ
 chiramats kore ⁽⁶⁸⁾
 魂を込める
 オオマ ヤッカ
 ooma yakka ⁽⁶⁹⁾
 としても
 セレマク オロケ
 seremak orke ⁽⁷⁰⁾
 背後を
 チコプンキネ
 chikopunkine
 見守ってください
 セコラン ヤクン
 sekoran yakun
 そうすれば
 アパネ ウタラ
 apane utar
 親戚のひとつと

アヌンネ ウタラ
 anunne utar ⁽⁷¹⁾
 他家のひとびとが
 イカシュイ クス
 ikashui kusu ⁽⁷²⁾
 手助けするために
 ウエカラバ ヤッカ
 uekarpa yakka
 集まっても
 ユニン サクノ
 yunin sakno
 痛い思いをせずに
 ニウチリ サクノ
 niuchiri sakno ⁽⁷³⁾
 あやまちなく
 モンライケ クニ
 monraike kuni
 働くことになる
 テオッタパンナ
 te otta panna ⁽⁷⁴⁾
 のでございます
 イレス カムイ
 iresu kamui
 育ての神を
 アエトムテ オワシプ
 aetomte owaship ⁽⁷⁵⁾
 立派にすることになるのが
 チセ カツケマツ
 chise katkemat
 家の女神
 ネ ア クス タプ
 ne a kusu tap
 ですので
 エカシカラ イナウ
 ekashikar inau
 エカシの作るイナウの
 ピリカ ヒケ
 pirka hike
 美しいもの
 コエトゥレンノ
 koeturenno
 とともに
 ヤヤプテ アイヌ
 yayapte ainu
 危うい人間

オリパク アイヌ
 oripak ainu
 畏れる人間で
 クネ ア ヤッカ
 kune a yakka
 私はありますが
 イリワク コッチャ タ
 iriwak kotcha ta
 兄弟の代わりに
 カムイ ケウトウモロ
 kamui keutumoro
 神の御心に
 エコイタツカラ
 ekoitakkar
 言葉を唱える
 クキ ハウエ タパン ヤクン
 kuki hawe tapan yakun
 のでございます
 イタク クルカシ
 itak kurkashi
 言葉のうえに
 チコホサリ
 chikohosari
 振り向いて
 アエネカラカラ
 aenekarkar ⁽⁷⁶⁾
 ください
 ケヤイタカラカ
 keyaitakarka ⁽⁷⁷⁾
 そのことで夢見も
 コカンヌ ナンコンナ
 kokannu nankonna
 確かめるでしょう
 ハ エ エ
 ha e e

(3) 注 (特記のない場合はノートの記載である。)

- (1) 「コノ平取村」久保寺 (1968) では「これなる二風谷」
- (2) 久保寺 (1968) では「二風谷の村」
- (3) 「村ノ後ニ立ツテ (村ノ上ニ立チテ)」
- (4) 「inauヲトルベキモノ」
- (5) 「先祖ガイノリ」
- (6) 久保寺 (1968) には対応する日本語訳がない。
- (7) 「神翁」
- (8) 「神様ノ心ノ中へ」
- (9) 「自分ノ言葉ノ上ヲ」

- (10) 「神様ガフリカヘリ」欄外に「hosari = henene」
- (11) heneneの下に線、上に「フリカヘ」
- (12) 「自分ニ給ハレカシ」
- (13) 「コノコトハ」
- (14) 「(若イ人ナラ) 若人」
- (15) 「弟ノ人」
- (16) 「尊イ御心ト」
- (17) 「同ジニ (ソレト同ジニ)」
- (18) 「尊イ神ニ」
- (19) 「期待ヲカケテ、予算ヲカケテ」 iraweの上に「望ム」。久保寺 (1968) では「お願いいたします事は」にあたるか。この箇所日本語訳は未詳である。
- (20) 「家ヲ立テヤ、トスル支度」か
- (21) 「火ノ神様ニマテニスル」この行の下に「ekoitomte 火ノ神様ノ家ヲツクル」とあり【型のかっこでくくってある
- (22) 「ソノ訳ヲ」
- (23) 「家ノ女神 (目的格)」久保寺 (1968) では「そのみ宅なる「家の女神Chise-katkemat」、「家の淑女神Kenru-katkemat」を造って差し上げたいと思うからです。」という説明的な訳が挿入されている。
- (24) 「ソノ前ニ」
- (25) 「家ヲ立テルタメニ」
- (26) 「場所ヲ定ム」
- (27) 「コシラヘテ」
- (28) 「何カ自分ヲ確カトハ思ハス」
- (29) 「kukonitan wa 雄弁, 行トゞク」
- (30) 「弟ノ」
- (31) 「前ニ, 代リニ, 代人ニ」
- (32) すぐ後に「ソレカラ」、少し離れて「ソノツギニ」この行と次の行に相当する日本語訳は久保寺 (1968) にはない。
- (33) 「若イ人」
- (34) 「イツノ日ニナルカ」
- (35) 「命ヲ与ヘラレル (タテル) 建テアゲル 形ヲアラハス」
- (36) この行と次の行は挿入。上に「家ノ蔭」線を伸ばして下に「加護ヲシテ」
- (37) 「ト一緒ニサゲテ」
- (38) 「立テアゲル」
- (39) 「時に」
- (40) 「親戚モ」
- (41) 「他人モ」
- (42) 「集リツドヒテ」
- (43) 「手伝ツテモ」
- (44) 「ケガナク」
- (45) 注73参照。久保寺 (1968) では「恙なく」に相当するか。ページ下の欄外に「niuchiri」
- (46) 「神ノ心」神の字の左上に「我」
- (47) 「神様ニ守ツテ」
- (48) 「拜ンデ頭ヲ下ゲル」
- (49) 「hepoki 顔ヲ下ゲル」ページ上の欄外に「hepoki」
「hetari 顔ヲ上ゲル」
- (50) 「至ラヌ, オボツカナイ」至ラヌの上に「自分ナガラ」
- (51) 「遠慮スル, 尊ブ」
- (52) 「親戚ノ代リ」
- (53) 「夢ヲ見タ上」
- (54) 「考ヘルデアリマセウ」上の行と (かっこでくくってある
- (55) 「(今晚夢ヲ見ルデアリマセウ」右側の欄外に「一部分地ナラシヲシテ、夢見ニヨツテタテルカタテヌカヲキメル。」
- (56) 欄外に「Hashinau uk kamui」
- (57) 久保寺 (1968) ではこの行は「これなる二風谷、次の行は「二風谷の村里」
- (58) 「ソレデアアルカラ」相当する日本語訳は久保寺 (1968) にはない。
- (59) 「言葉ノ上」
- (60) 「フリカヘル」
- (61) 「フリカヘツテモラヘルデセウ」oomaの上に「eoma」
- (62) 「サウナルベキ」この行の訳は未詳。久保寺 (1968) では「どうか」に相当するか。
- (63) 「親戚」kunuの上に「kukor」欄外に「chikor pon kotan 鷺川 自分ノ村ノヘリクダル」
- (64) 「ゴ一緒ニ」なお久保寺 (1968) によれば、次行のram nusa kor kamuiはshirampa kamuiを指すと考えられる。また同書の日本語訳では「狩猟の大神」と「森の立樹の大神」の言及の順序が入れ替わっている。
- (65) kotoikiを抹消してtokoikiに訂正してある。「シタクスルト」久保寺 (1968) ではこの行に相当する日本語訳がないっぽう、「次のことであります。「我等を育てる大神Iresu-kamui」「国土を領らす媼神Moshir-kor-huchi」を崇め称えまつる為、」が加えられている。
- (66) 「サウデアリマスカラ」久保寺 (1968) では「私の子 (弟・甥) 何某に代わって」と「さて、若き男子、私の子 (弟・甥) 何某は」が加えられている。
- (67) 「定マラナイ日, ドノ日ニ」
- (68) 「コシラヘルノ itakmakushte」欄外に「akar wa aokere itakmakushte」
- (69) 「コシラヘ上ゲル ハシラモ」

- (70) 「見エナイガ、カゲナガラ」
(71) 「anun ne utar」
(72) 「手伝ニ」
(73) 「アヤマチ」
(74) 「ソレナノデス teor tapan na nehi tapanna」欄
外に「teor tapan na」
(75) 「人間ニ kamui huchi ニ ekoitomte」人間ニの上
に「マテニ与ヘル」owashipの下に「初メル」
(76) nnaを抹消してrに訂正してある。
(77) yaiとtakarのあいだにkoとあるのを抹消してある。

おわりに

家屋の敷地を選定する儀礼にかんするこれまでの記録を概観するに、
「地鎮祭」を指すアイヌ語呼称は、「チセコツエイノンノイタク」または「チセコテイノンノイタク」cisekot-eynonnoytak、「チセコツカムイノミ」cisekotkamuy nomi、「チセコツエトウン アンキオンカミ」cisekot-etun an=ki onkamiである。「チセコテノミ」は、おそらくこの数十年のあいだに研究者に

よって導入されたなんらかの誤解に基づきアイヌ語としても不自然なかたちであろう。

また久保寺逸彦による調査ノートの中の「地鎮祭」の祈詞によれば、祈りのなかで述べられているのは、敷地の選択の吉凶にかんして神々が夢で知らせることの依頼であり、「清め」や「魔払い」にかかわる表現はみられない。

参考文献

- アイヌ民族博物館編 2002. 葛野辰次郎の伝承.
萱野茂 1976. チセアカラ. 未来社.
萱野茂 1996. 萱野茂のアイヌ語辞典. 三省堂.
久保寺逸彦 1968. アイヌの建築儀礼について一沙流
アイヌよりの聴書き一. 北方文化研究 3.
高倉新一郎 1969. 家屋の建築に伴う儀式. アイヌ民族誌. アイヌ文化保存対策協議会.
鷹部屋福平 1943. アイヌの住居. 彰国社.
北海道教育委員会編 1984. アイヌ民俗文化財調査報告書(アイヌ民俗調査)Ⅲ 静内地方.

On Ainu "Ground-breaking" Ceremony: Its Name and an Example of Prayer in Ainu

Osami OKUDA

Present paper, focusing upon the ceremonies held before building new houses in traditional Ainu religion, examined how the ceremonies have been called in the Ainu language. This paper also tran-

scribes an example of Ainu prayer recorded on an occasion of such ceremony and translates it into Japanese.

